

英語圏文学史における「代表性」を考える

生駒久美

はじめに

2025 年度の文部科学省が発行した「教職課程認定申請の手引き」のなかにある「中・高等学校教員養成課程外国語（英語）コアカリキュラム」によると、文学史の授業で大学教員は、「代表的な文学」や、作品で描かれている「国や地域の文化」、さらに作品内で用いられている「英語表現」を教えていくことが求められている。本発表では、文学史の授業において、文科省の主張する「代表的な文学」に多様性をいかに取り入れていくのかについて考察する。最初に所属先の授業を紹介し、担当するアメリカ文学史をどのように教えているのかについて実践報告をする。次に、文科省の言う「代表的な文学」の射程を広げる意義を考え、その際に生ずる問題点を挙げる。

1. 授業での実践例

授業に関しては、所属先である東京都立大学人文社会学部人文学科の英語圏文化論教室では、「英語圏文学史」という名称で、アメリカ文学とイギリス文学をそれぞれ担当する教員が教えている。授業単位は通年で 4 単位となり、主に 2 年生に向けた必修科目になる。一クラスの規模は 15 名程度になる。この文学史の授業は前期と後期に分かれ、私は前期を担当し、建国期から 19 世紀後半あたりまでを教えている。

アメリカ文学史の授業の手順として、初回の授業では、学生に授業で扱う作家名を記載したプリントを配布し、学生は、教員による各作家の簡単な説明を聞いて、どの作家を担当するのかを決める。翌週以降、発表する学生は、担当する作家の生い立ちや歴史的背景、代表作を調べ、プリントにまとめる。その後、その学生は、こちらで配布した代表作の抜粋を音読、訳読し、抜粋箇所の解説をする。そして最後に感想を述べてもらい、教員および他の学生との質疑応答で学生発表は終わる。学生発表の所要時間は 15 分程度になり、学生によるプレゼンテーションは成績評価の対象になる。学生発表の後、教員が、パワーポイントを用いながら、最初にアメリカ史および文化思潮を紹介し、次に作家や文学作品を解説する。

具体例を挙げて説明しよう。アメリカ人作家 Mark Twain を文学史の授業で取り上げるとする。学生発表の後、教員は、南北戦争を背景に、作家が生まれ育ったミズーリ州の複雑な歴史を解説する。次に、作家の生い立ちを説明しながら、ミズーリ州で奴隷を所有する家族の下で生まれ育った Samuel Clemens が、ユーモア作家“Mark Twain”になっていく過程を話す。そして、黒板に人物関連図を板書しながら、代表作のあらすじを紹介する。その後、代表作 *The Adventures of Tom Sawyer* (1876, 以下 *Tom Sawyer* と略記) とその続編 *Adventures of Huckleberry Finn* (1885, 以下 *Huck Finn* と略記) を取り上げ、担当している学生に、同時代の南部を描写した抜粋を音読、次に訳読してもらう。そして履修生全員に、*Tom Sawyer* の抜粋には明るい表現に、*Huck Finn* の抜粋には暗い表現にチェックしてもらう。このような手続きを通じて、学生たちに両作品の対照性を把握してもらう。そして、なぜ、どちらの作品も 1830 年代あたりのミズーリ州を舞台にしているのにもかかわらず、*Tom Sawyer* の世界は明るい表現が頻出するのに対し、*Huck Finn* の世界は暗い表現で溢れているのかについて、学生同士でディスカッションをしてもらう。

学生から意見を聞いた後、教員が、小説における視点の問題に言及する。つまり、全知の視点で書かれた *Tom Sawyer* の南部は、明るく、活気のある描写であるのに対し、*Huck* 少年の視点で書かれた *Huck Finn* の南部は、暗く、退廃的に描かれていることを指摘する。そして *Huck Finn* には、*Tom Sawyer* の作品ではほぼ言及のない、奴隷制の問題が浮上することを、黒人逃亡奴隷ジムの活躍も含めて説明する。*Huck Finn* の主人公は貧乏白人の息子であるゆえに、生活条件が黒人奴隷とそれほど変わらない。黒人奴隷と交流する貧乏白人の *Huck* の語りから、中産階級の *Tom* には見えない奴隷制や、奴隷制を抱える南部の退廃が見えることを説明する。そして授業の最後には、学生に授業の感想や質問を書いてもらう。このような手続きを踏むことで、学生を小説世界に誘い、小説から垣間見られるアメリカの人種問題や白人間の階級差について主体的に考えてもらうようにする。

2. 「代表的な文学」の射程

ここまで授業の行程を説明したが、そもそも文科省の言う「代表的な文学」とは一体誰の作品を指すのかといったことを考える必要があるだろう。かつて、代表的作家は白人男性作家を指した。たとえば、碩学の研究者 Francis Otto Matthiessen は、著書 *American Renaissance* (1941) のなかでアメリカ文学の豊穡さを指摘し、自己の内面、人間の精神と向き合った作家として Ralph Waldo Emerson、Henry David Thoreau、Nathaniel Hawthorne、Herman

Melville、Walt Whitman らの作品を取り上げた。キャンノンを、古典的価値を持つと保証された文学作品だとひとまず定義するのであれば、Matthiessen の挙げた、白人男性作家の文学作品は、キャンノンの地位を確立している点で、狭義の代表性を指すことになる。

しかし、たとえば、2004 年に初版、2011 年に再版された Richard Gray 著の *A History of American Literature* を紐解くと、白人男性だけでなく、女性、黒人、移民、チカーノ、ラティーノ、アジア系、インディアンに至るまで、多様な作家を網羅している。そうした動向に呼応するかのように、2020 年以降に日本で出版されたアメリカ文学史の本を開くと、代表性がもはや白人男性作家に限られないことが分かる。たとえば、2021 年に出版された、竹内理矢氏と山本洋平氏編著の『深まりゆくアメリカ文学』や、2023 年に改定された諏訪部浩一氏編著の『アメリカ文学入門・新版』、さらに2025年に出版された橋本安央氏、藤井光氏、坂根隆広氏編著の『アメリカ文学史への招待』のいずれも、「代表的な文学」として女性や非白人、移民の作家たちを多数取り上げている。つまり日米においてアメリカ文学史は、白人男性作家に限定しない、広義の代表性を示すようになってきている。こうした風潮を受け、文科省の言う「代表的な文学」の射程を広げ、長い間、アメリカ文学のキャンノンから閉め出されてきた女性や非白人、さらに性的マイノリティの作家も考察の対象にするようにしている。

多様な背景を持った作家を教えることの利点の一つは、さまざまな視座、および表現方法を明らかにできることだ。たとえば、奴隷制を扱った Harriet Beecher Stowe の *Uncle Tom's Cabin* (1852) と、元黒人奴隷の Harriet Jacobs の *Incidents in the Life of a Slave Girl* (1861) を比較するとする。授業を通じて、元奴隷であった黒人女性作家が、自身の体験を伝える際に、白人女性作家が用いた感傷小説のレトリックにいかにかかり、同時にどのようにそこから距離をとったのかを説明する。Jacobs の主人公 Linda Brent は、好色な白人主人から逃れるために、別の白人男性の誘惑を受け入れ、その男性との間に子供を儲ける。その際、Linda は、いかに自分が追い詰められていたのかを説明し、読者の共感に訴えかけている。Linda の訴えは、*Uncle Tom's Cabin* において共感の力を読者に訴える Stowe の主張と共鳴している。Jacobs は、共感力という感傷小説の主題を踏襲していることが確認できる。しかし、多くの感傷小説の結末が幸福な結婚で終わるのに対し、*Incidents in the Life of a Slave Girl* の結末で Linda は、結婚が自分たちの状況を改善することにならず、感傷小説が寿ぐホームを持てない状況を訴えている。換言すると、Jacobs は、感傷小説の約束事を踏襲しながら、その限界も読者に知らしめている。学生たちには、白人女性作家たちによって執筆された感傷小説の約束事を、黒人女性作家が利用しながら、相対化していることを伝える。

3. 射程を広げることに伴う問題点

このようにアメリカ文学における多様な作家に焦点を当てることで、様々な表現形式やメッセージを考察することが可能になる。言い換えると、作家同士の関係性に焦点を当てることで、アメリカ文学史が作家たちによるコミュニケーションのネットワークによって形成されていることを示すことができる。しかし、時間の制約があるなかで、文学作品の多様さ、豊穡さをどこまで伝えるべきなのだろうかという問題が浮上する。先に述べた通り、歴史的背景や文学思潮などを紹介した後に、作家、作品、文体の確認をすると、時間をかなり要する。さらにメジャーとされる作品とマイナーとされる作品を比較することで、学生の理解は深まり、文学に関する知識も豊かになるが、授業時間内に収まらないこともある。

また、白人男性、白人女性、非白人、移民、性的マイノリティなど、扱う作家の範疇はあまりに広く、15 回の授業のなかで、どの作家を深く扱い、どの作家を言及するのに留めるかについても取捨選択が必要になる。私の場合は、さまざまな背景の作家に言及し、白人男性に偏らないように配慮しながら、文学史において大きな影響力のあった作家や作品を紹介している。また、個々の作家単体で教えるのではなく、作家間のネットワークや交流を学生が思い描けるように意識しながら指導している。

引用文献

Gray, Richard. *A History of American Literature*. Wiley-Blackwell, 2011.

Jacobs, Harriet. *Incidents in the Life of a Slave Girl*. Edited by Frances Smith Foster and Richard Yarborough. Norton, 2019.

Matthiessen, Francis Otto. *American Renaissance: Art and Expression in the Age of Emerson and Whitman*. Oxford UP, 1949.

Stowe, Harriet. *Uncle Tom's Cabin*. Edited by Elizabeth Ammons. Norton, 1994.

Twain, Mark. *Adventures of Huckleberry Finn*. Edited by Thomas Cooley, Norton, 1998.

---. *The Adventures of Tom Sawyer*. Forward and Notes by John. C. Gerber, established by Paul Baender. U of California P, 1980.

諏訪部浩一編『アメリカ文学入門〔新版〕』三修社、2023 年。

竹内理矢、山本洋平編『深まりゆくアメリカ文学』ミネルヴァ書房、2021 年。

橋本安央、藤井光、坂根隆広編『アメリカ文学史への招待——豊穡なる想像力』法律文化社、2025 年。